

普及活動情勢報告（令和8年6月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

須崎市安和地区の農地について考えよう ～水田維持管理対策について協議～



地域との意見交換の様子

5月18日、須崎市安和地区で水田維持管理対策にかかる地域との協議が開催され、安和地区からは農家など6人が参加しました。

農業改良普及課は、J A土佐くろしお水田維持管理対策研究会の取組やアンケート結果を目標地図上に見える化した資料を用い、農地の維持管理には集約が必要であることを説明しました。

参加者からは、「効率的な営農に向けた協議には情報が足りない」という意見があったため、意向が把握できていない農地を中心に地域主体で聞き取りすることとなりました。

農業改良普及課は今後も、効率的な耕作に繋がる仕組み作りに取り組んでいきます。

みんなで農薬事故ゼロへ ～J A高知県津野山園芸部総会で農薬安全使用指導～



記録の大切さを説明する
普及職員

5月19日、J A高知県津野山園芸部の総会が開催され、梶原町と津野町の施設園芸農家18人が出席しました。

農業改良普及課は、農薬の使用前に必ずラベルで登録内容を確認することや使用記録簿が農家を守る盾でもあることを説明し、農薬事故ゼロを呼びかけました。

参加者からは、「散布液量の目安は？」「調製した薬液が余ったらどうするか？」など多くの質問や意見がでました。

農業改良普及課は今後も、安全・安心な園芸品の生産と産地の信頼向上に向け、農薬の安全使用について指導していきます。

高温対策を見直しましょう ～シシトウの高温対策実証内容の検討会～



生産者らと話し合う
普及職員

5月20日、26日の2日間、中土佐町久礼の雨よけシシトウほ場で、高温対策に関する実証内容の検討会を行い、生産者や専門技術員など3名が参加しました。

農業改良普及課は、専門技術員とともに、土壌水分計を活用したかん水管理や遮熱シート開閉のタイミングについて協議し、前作からの改善点などを話し合いました。

生産者からは、「去年は遮熱シートを張りっぱなしにして収量が減少したので、今年はシートの使い方とかん水管理を重視していきたい」との声がありました。

農業改良普及課は今後も、夏場の安定生産に向けて、高温対策の課題に取り組んでいきます。

オクラの主要病害虫を確認しましょう ～J A土佐くろしおオクラ研究会目慣らし会～



オクラの病害虫を説明する
普及指導員

6月5日、須崎市大間出荷場でJ A土佐くろしおオクラ研究会の目慣らし会が開催され、生産者3人が参加しました。

農業改良普及課は、オクラに発生する主要病害虫について説明し、防除のポイントを指導しました。

参加者からは、「オクラにも褐斑病が発病するのは知らなかった」「黒斑病が起きないように収穫後の管理を慎重に取り組みたい」といった声がありました。

農業改良普及課は今後も、生産者に対し適切な防除や栽培管理について個別巡回等を通じて周知し、病害虫の発生抑制、収量増加に向け指導していきます。

高知で農業に関わってみんかえ！ ～梶原高校出前授業を開催中～



本県農業の特徴を説明する
普及指導員

6月10日、11日の2日間、県立梶原高校で農業に関する出前授業が開催され、1・2年生のべ45人が参加しました。

農業改良普及課は、1年生には本県農業の特徴や最先端技術、新規就農者の声など、2年生には茶の歴史や入れ方について説明しました。

ミョウガの全国シェア率の問題では、生徒からは「60%」や「80%」などの回答があり、茶の入れ方実習では、「とてもわかりやすかった。家でも急須で茶を入れてみる」といった声がありました。

農業改良普及課は今後も、農業コース2年生を対象に、地域の栽培品目を中心に講座や現地での収穫・調製作業等の実習を実施していきます。

天敵利用推進と主要病害の防除徹底 ～J A高知県津野山なす部会現地検討会～



天敵利用のメリットを説明する
普及指導員

6月10日、J A高知県津野山なす部会の現地検討会が開催され、小なす生産者5人が参加しました。

農業改良普及課は、タバコカスミカメの利用やI o Pクラウド「SAWACHI」について説明しました。

生産者からは、「天敵を導入してからコナジラミとアザミウマはほとんど見ていない」「飛び込みがあるから、農薬だけではイタチごっこ」「品目転換したらSAWACHIの出荷データはどうなるのか」など多くの意見や質問がありました。

農業改良普及課は今後も、小なすの生産安定と省力化技術の推進に取り組んでいきます。